

秋晴れの下、スタートを切る参加者 18日午前8時40分、内灘町の石川県立自転車競技場



第22回「ツール・ド・のどと401能登半島一周サバイバル・サイクル2010」(同実行委、石川県体協、県自転車競技連盟、北國新聞社主催)は18日、内灘町の県立自転車競技場を発着点に、3日間の日程で開幕した。秋晴れの下、1106人が初日のゴールである輪島市を目指して能登路を疾走した。

ツール・ド・のどと開幕

40都道府県のサイクリング愛好者が愛車とともに同競技場に集結し、午前8時半に八十出泰成内灘町長の号砲一斉にスタートした。出場者は地元住民らの声援を受けながら海岸線のコースを銀輪を連ねて進んだ。今大会には6歳から79歳まで1412人が参加した。初日は全行程409.3kmを3日間ですべて走るチャレンジコースに654人、内灘―輪島を走る一日コースに452人がエントリーした。19日に

1106人、内灘出発

輪島―七尾、20日に七尾―内灘で行われる1

秋晴れ 銀輪 疾走

日コースには計306人が出場する。レース日本代表の小嶋るサポーター隊には、パ敬二選手、北宗五輪トラックス五輪トラックレース日本代表

の北津留翼選手、アネネ五輪ロードレース日本代表の唐見実世子さんらが加わる。

開会式では、山本正美北國新聞社事業局長と兼賛の八十出町長があいさつ、綾部潔県自転車競技連盟会長が激励した。財団法人JK Aが特別協力する。